

実習期間：2020年10月23日～同年11月27日

初級授業について（進め方）：1回

授業見学：30回 / 教案指導：6回 模擬実習：3回 実習：3回

## 1. きっかけ

数年間の海外生活がきっかけで日本に住む外国人に日本語を教える仕事をしたいと思い、他校の養成講座に通い始めました。卒業前の教育実習では、生徒役は外国人生活者の方々と、日本人実習生が模擬生徒になるよりも実際のやり取りに近かったはと思いますが、学習者の方が半人前の実習生達の授業を何でも受け止めてくれ、学習者側に助けられて終えることができた感じでした。（今思えば、中上級や上級レベルの方々だったと思います）

実際の授業ではとてもこのようには進まないはずだという疑念や、特に日本語を習い始めたばかりのような初級学習者に対してどのような向き合い方をするのか全くイメージできずに終わってしまった焦りから、もう少し具体的な研修や実習を受けたいと思いインターネットで検索したところ、偶然「初級実習」の文字を見つけたのが貴校のサイトでした。

## 2. 実習で得た気づき

### 1) 授業見学

初級～上級まで全レベル、かつ、同じレベルでも読解や会話、文法などテーマの異なる回をたくさん見せていただきました。全体を通して気づいたことは、

- ・語学レベルによって学生達の日本語力が明らかに違う（こんなに違うのかと驚きました）
- ・先生方が、レベルに合わせて、語彙・語りかけ方などをはっきり使い分けている
- ・最終的に日本語で意思疎通が成立すれば、学生の母語使用も柔軟に許容している。
- ・特に聴解・読解は、テーマの前に学生側の想像が膨らむよう工夫しており、実際に学生の理解を助けている。（机上で習った「スキーマの活性化」がどういうことか分かりました）
- ・1つの言葉から類義語・対義語・接続・ニュアンスなど話を広げて、既存の知識とリンクするよう刺激する
- ・学生の語学上の間違いは決してすぐに否定せず、学生自身あるいはクラス全体で間違いを気づかせるようにしている。また、極力教師側から正解を言わないようにしている。
- ・レベルに合わせてではあるが、各テーマについて「あなたならどう思うか」と学生が自分の事に置き換えて考えを広げていけるようにしている

など、学生側に考えさせるような形で会話を進め、学生も先生の声掛けに対して基本的に良く反応しているのが印象的でした。

### 2) 実習

「初級前半」を対象に、教案作りのポイント（特に導入と語彙コントロール）、教壇に立つ

た時の態度、キューの出し方、時間配分やテンポの作り方などを教えていただきました。

教壇に立つ前、学生と対峙する時に心がけたのは、

- ・声を明るくする
- ・学生1人1人の反応を見るようにする
- ・少しでも学生側から発言があったら、必ず何らかのリアクションをする

の3点でした。

実習内容はその日に学習するテキストの一部分のみで、続きをご担当の先生にフォローしていただけるという安心感がどこかにあり、毎回思い切った気持ちで臨めたように思います。そして、実際に授業を行って体感したことは、

- ・学生がこちらの言う内容を理解しているかどうかは、顔や態度ですぐに分かる
- ・学生と直接やり取りすることで、お互いの信頼感や意思疎通がどう深まっていくか
- ・キューの出し方を含め、相手に伝わるよう指示を出すことの難しさ
- ・繰り返しの口頭練習の大事さと、それをいかに飽きさせないようにテンポよく、しかし一人一人がきちんと言えているかしっかり確認することの難しさ
- ・学生をその気にさせる（いわゆる導入）考え方も技術も、かなり未熟である
- ・教案から脱線すると、一気に語彙コントロールができなくなる

など、できたことよりもできなかった反省の方が多かったです。

しかし、実習回数が進むにつれて学生達の笑顔が増えてきたのは嬉しく一番の励みになりました。

### 3. 今後の抱負

実習のご相談に伺った頃は「今の自分のままではとても教える技術なんてない」と悲痛な気持ちでいましたので、講師採用していただけるとは夢にも思いませんでした（面談時にその可能性があることはお聞きしましたが、本当に声をかけていただけるとは全く思いませんでした）。

たくさんの先生方のサポートのお陰で何とか1カ月間授業をしましたが、今回こうして実習を振り返ってみて、せっかく実習時に気づいていたことがほとんど授業に反映できていなかったな、もったいないことをしていたなと改めて思いました。

そうそう簡単に身につくものではないことも重々承知していますが、これから行う授業では、毎回小さくても何か1つ改善点が認められるようにしていきたいです。

また、学生への向き合い方として、私は学生の反応を見るのではなく、顔を伺っていたように思います。学生の反応は大事ですが、どう思われているかはあまり気にしないようにし、毎回新しい気持ちで臨むように切り替えたいです

「授業は学生のもの」という心構えを常に忘れず、大変なことも楽しみつつ試行錯誤していきます。

以上